



桂林小だより

六年生 修学旅行へ

十月三十一日～十一月一日 長崎県

十月三十一日、桂林小学校の六年生が元氣よく修学旅行に出発しました。私も同行しました。行先は、長崎市・佐世保市です。

第一日目は、長崎市にて主に平和学習に取り組みました。長崎原爆資料館や被爆遺構である旧城山国民学校校舎、平和公園、如己堂、浦上天主堂、旧長崎医科大学、山王神社、爆心地公園などを見学しました。被爆者から実体験を話していただく被爆体験講和、平和公園や山王神社の大クスの前で行った平和を祈る集会などは、実際に現地に行かなければできない貴重な体験でした。どの活動にも、素直で真っ直ぐな気持ちで取り組む子どもたちの姿がとても印象的でした。

二日目は、午前中グラバー園や大浦天主堂を見学し長崎の歴史や文化にふれた後、午後はハウステンボスにて班行動でした。台風接近に伴う雨に降られた二日目の活動でしたが、元気に楽しむ六年生の子どもたちでした。

二日間を通して、大変有意義な経験を積むことができました。六年生自身、地域に住む小山浩一先生を教室にお招きし、お話を聞かせていただくなど、事前学習にもしっかりと取り組んでおり、現地での活動がより実りのあるものとなりました。

様々な面で子どもたちを導き、サポートして下さった旅行会社の方やバスガイドさん、運転士さん。また、説明会後約一カ月もの間、子どもたちの体調管理や準備に努めてくださった保護者の皆さま。そして、事前指導から危機管理の面でも、組織的に準備を進めてきた本校関係職員。素晴らしい修学旅行が実施できたのは、皆さまのおかげです。深く感謝申し上げます。

平和公園での平和集会では、全校で平和な未来実現への願いを込めて折った折り鶴を捧げました。下の写真は、全校の前で、みんなの折った折り鶴をしっかりと被爆地・長崎に届けてきますと誓う六年生の様子です。



ANAクラウンプラザホテルでの昼食。トルコライスを食べました。これも楽しい修学旅行の一コマです。



爆心地から約八百メートルに位置する山王神社の境内にある当時樹齢四百年以上だった大クスは、原爆による爆風と熱線を受け、黒焦げの太い幹だけが残り残りました。しかし、被爆から約二カ月後には新芽が芽吹き、その後も順調に回復し、葉の生い茂る大クスへと復活を遂げました。家族や親戚を失い、住む場所もままならなかった人々は、この大クスの生命力の力強さに勇気づけられたといいます。事前学習で小山先生からこの大クスについて教えられた子どもたち。小山先生から「お母さんに会わせてください」と託された子どもたちは、八女市星野村の平和の塔の隣にあるクスノキの葉を手に大クスの前で集会を開きました。星野村のクスノキは、この山王神社の大クスの種子から育ったものでした。



家庭科ミシン学習 学習サポーターが

来てくださいました！

五・六年生の家庭科の授業に今年も「学習サポーター」として地域の方々に来ていただきました。次の五名の方です。

山川 美津子 様

河津 八代子 様

熊谷 京子 様

河津 幸子 様

小松 芳枝 様

これは、桂林小の学校運営協議会の取組の一つで、学校の要望に応じてゲストティーチャーや学習サポーターを派遣し、授業支援を行ってくださっています。

子どもたちに寄り添い、ミシンやアイロンがけを丁寧に教えていただきました。子どもたちも安心して作業ができました。

皆さん、子どもたちの学びを温かく支えてくださり、大変ありがとうございました。



食育学習

桂林小学校では、児童が正しい食事の在り方や望ましい食習慣を身につけ、食事を通じて自らの健康管理ができるようにすることを目標として、食育学習に取り組んでいます。その一環として、栄養教諭の方をお招きし学習を深めています。今年も、天瀬給食調理場の三宅祐子先生が来てくださっています。

一年生の食育学習の様子をのぞいてみました。この日は、「どうして給食にはいろんな食べ物が入っているのかな」の学習でした。一年生は、実際にその日の給食に使われている食材について、「栄養が入っているから」「みんなを元気にするため」「成長するため」など、いっしょに考えながら考えていることができていました。

その日の給食は、特別おいしい味わいだったことでしょう。いい勉強ができましたね。



きれいなお花 ありがとうございます

環境美化部 花植え活動

十一月九日（土）、育友会環境美化部の方々が色とりどりのきれいなお花をプラントナーに植え、北校舎・南校舎の児童昇降口と正面玄関に置いてくださいました。毎日子どもたちを明るく、あたたかく迎えてくれています。

毎年続けられているこの取組が、子どもたちの学校生活に安らぎを与えてくださいます。環境美化部の皆さま、大変ありがとうございました。

